

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390500033		
法人名	医療法人すえひろ会		
事業所名	グループホームこうらく		
所在地	熊本県水俣市浜町1丁目12-9		
自己評価作成日	R5年11月18日	評価結果市町村受理日	令和6年3月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	令和6年2月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍で近隣住民や保育園児の訪問、学生の職場体験等の出入りが出来ていない中で4年ぶりに家族様参加でのパラ園見学、敬老会、お月見ではおはぎを作り等を行ったことで利用者の普段と違う生き生きとした姿を見ることができた。また、消防避難訓練やBCPIに伴う避難訓練を実施し利用者と共に色々な事を確認が出来、良い成果に繋がった。今後も感染対策を取りながらコロナ禍で出来なかった行事や地域の方々との連携を行い訪問が出来るように進めていきたい。食に関しては食事の提供を職員の手作りから7月より全面的委託依頼を行っているがおやつでは出来る限り手作りの物を提供し喜んで頂いている。今後も地域の方々、ご家族、行政との信頼関係を築き理念に基づいて更なる質の向上に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者の変更というか過度期の中で、前管理者を中心として入居者のできる力(お茶入れやお茶出し等)や読む力(バイタルを虫眼鏡で確認される入居者等)の発揮・維持を視点に、感謝の言葉を掛けあいながらのお茶の時間となる等入居者の特性や残存能力を生かした生活は自信回復・帰宅願望への取り組みの成果として表われ、温かいホームが形成されている。昨今の自然災害の猛威に注視し、避難棟の新設、消火訓練の他、土嚢を積む実体験等入居者と一緒に行う等、危機管理を高めて望むホームでもある。研修の充実や職員の持つケア意識の高さは手話教室(耳の聞こえが悪い方への支援)として入居者と一緒の学び姿勢に表出し、優しく丁寧な関わりが入居者の笑顔を引き出している。コロナ禍以前に戻りつつあり、これまで築き上げてきた地域との確固たる関係の中で、一人ひとりの状況の違いを焦点を当てた“個”と、グラフ化して取り組む歌留多取り等の楽しみ毎等理念である“私なりに…”と“心豊かな暮らし”の実践に、職員が一致協力して臨むホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに ○ 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている ○ 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが ○ 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	支援に迷って解きは理念を振り返り管理者と職員はその理念を再確認、共有し実践に繋げている。	入居者一人ひとりの特徴を生かした日常や役割のある生活に『私は わたしなりに 生きてゆきたい』とする理念の実践として表出し、コロナ禍で外出が難しかった状況のなかで、貼り絵やレクリエーション等楽しみのある生活を支援している。理念をケアの原点として捉え、毎月の運営会議を振り返る機会としている。入居者と職員とが感謝の言葉を掛け合いながらの生活ぶりや新聞等を読んで過す方等集団ケアや“個”に注視した日常等“心豊かに”を実践するホームである。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	回覧板の受け渡しや自治会の会議には2カ月に1回参加をして意見交換や共有を行っている。コロナ下で地域との交流は出来ていなかった。	自治会に加入し、回覧板の受渡しや会議への参加等地域の一員としての関わっており。感染防止対策として、地域住民の立ち寄りには少ない状況にはあるが玄関先の関わりとして季節毎に花や野菜等が寄せられる等開設当初から築き上げてきた地域との関係は変ること無く継続されている。	新たに建設された避難棟を見てもらう等感染症次第では地域住民の立ち寄りのきっかけにつながる事が期待される。また、避難棟の有効活用を検討頂きたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	季節に応じた季節の実施報告を行い、うまくいったことや問題点等を発信する。コロナ下で地域の方々の参加が出来ていなかったの次で次回つなげていきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービスの実際の情報を提供し、市や包括、自治会長、民生員の方たちと意見交換を行いサービスの向上に活かしている。	定期的開催する運営推進会議は、ホームの現状や研修・行事や活動、事故やその対応、インシデント、身体拘束廃止に向けた取り組み等を報告し、双方向の意見交換が行われている。ホームで活用する移動販売の存在を発信することで住民住民も利用できる等の有意義な意見が出される等双方向の活発な意見交換である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や地域密着型サービス会議で情報交換を継続的に行っている。アドバイスをもらった際は職員と共有し今後の支援につなげている。	運営推進会議を通じた情報発信や、行政からの情報提供(FAX等による)、事故報告書提出に出向き来ながら情報交換を行っている。行政及び地域包括支援センターからの参加もある地域密着型事業所サービス会議での情報交換、見守りネットワークの確認や包括主催の研修への参加、行政からの提案による介護アシスタントとして高校福祉課の生徒を受け入れる等協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ZOOMでの研修に参加し他の職員においては資料を読み共有している。	身体拘束廃止委員会(同法人3事業所合同)への参加や研修(身体拘束廃止及び虐待防止・対策研修等)への参加、ホーム内では計画を立てて研修を行っている。水俣市のSOSネットワーク対象者として登録し地域住民の見守り支援を受けている他、入居者個々の外出傾向等把握し、見守りを徹底し、離脱問題等には対策を検討するとともに、見守りと所在確認の徹底を全職員で共有している。また、眠りスキャンを設置し、1名の入居者の様子を確認している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束委員会で虐待に関する資料を学びまた、市主催の研修に参加している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	包括支援センター主催の研修に参加し、制度の理解に努めている。職員同士、研修の資料をもとに活用できるように取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は重要事項説明書に沿って行っており、理解できる様わかりやすく説明している。分からないところはないか確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話でのやり取り時に意見や要望を聞いている。	意見箱の設置や、面会時や電話により要望等を聞き取りする他、家族には毎月入居者状況等写真付きにて報告している。家族から夜の睡眠状況等気になることは気軽に質問されており、家族と職員との良好な関係にある事が窺われる。運営推進会議も問題提起の場として生かされており、新設した防災棟の役割等を改めて説明している。	家族も参加されたバラ園見学等家族も協力的であることが窺われる。家族の訪問も出来るようになってきており、家族との交流会から家族会へ発展することが期待される。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議(運営会議)を月1回行い意見交換を行っている。反映できるところはすぐ行っている。	毎月の運営会議や法人での合同運営会議での意見交換や、日々の申し送りや申し送りノート等を活用しながら職員の意見や提案を収集し、ケアサービスに反映させている。耳の聞こえが悪い入居者対応として、職員の意見により手話教室を入居者と職員とが学ぶことでコミュニケーション強化に繋がったり、有事の際には職員に参集を掛け、準備したものを避難場所へ運び土嚢を積み等実体験を取り入れる等職員同士の意思疎通の良さや新たな事へ挑戦する意識を持ってケアに当たっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修の機会もあり参加しやすい環境である。有給や希望休の取得など労働環境は整っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ZOOMでの研修に参加できる様環境は整っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	介護保険事業所同士集まる機会があり情報交換を行いネットワークが出来ている。勉強会も開催されBCP作成に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入時は特に本人の不安が大きいため傾聴する時間をゆっくりとっている。焦らない対応で接している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入初期は家族の不安が大きいため安心できるような対応を行っている。分からないこと要望はゆっくり傾聴している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時の支援は何ができるか家族と本人より話を聞いて出来る範囲で対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者同士が支えあっていけるようその時の状況に応じて遠くから見守っている。入居者同士の関係性が保てるよう配慮している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診の付き添いやバラ園見学など家族の支援があり支え合うことができていた。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	状況に応じ出来る範囲での面会を行い関係性が途切れない様支援に努めている。	コロナ感染症が5類となってもまだ馴染みの場所への外出は出来る状況になく、歌留多大会としてグラフ化し競い合ったり、新聞や週刊誌に目を通す入居者、ドライブがてらの家族との受診、家族と馴染みの美容室へ通う入居者等家族の協力を得ながら継続している。家族で集まりお祝いをされる予定もある他、お月見のおはぎ作り、素麺流しや夕涼み会等ホームで今できることを継続して支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、無理のないように間に入って関係性を保っている。気の合う方やそうでない方も孤立しない様掛けを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も転居先での生活を伺うなど経過を見守っている。入院となった場合でも経過を見守り必要に応じて相談や支援を行っている。亡くなった場合でもお世話になった縁があり、お悔みに行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の希望を傾聴し家族にも相談を行い意向に沿うように努めている。困難な場合は利用者の思いに寄り添い意向に近くよう努めている。	職員は日々入居者に寄り添い、話しかけながら思い等を引き出している。また、自分の思いを持って生活される入居者等も見られその思いに応えたり、帰りたい思いには家族との電話等その時々で対応している。耳の聞こえに対してはジェスチャーや筆談等非言語的なコミュニケーションや簡単な手話等により本人の思いに応えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人の暮らしてきた環境や家族様との関係性を把握し生活環境を整え安心して生活できる様努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	11にひとりの心身の状態を把握し職員間で情報共有している。どの様な心身の状態なのか把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議で家族から情報を伺ったり、カンファレンスなどで職員間で話し合い介護計画を作成している。	日々の申し送りにより入居者の状況を把握し、毎月カンファレンスや3ヶ月毎の評価によりプランの継続可否を見極めている。家族の要望を踏まえホームでの生活を話し合い介護計画に反映させる他、半年毎の見直しや退院による見直し等現状に即した具体的なプランが作成されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿ってサービス内容を実践し結果や気づきを記録している。気づきは職員間で話し合い共有し介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	1人ひとりに合ったサービスの提供を心掛け柔軟性をもって希望に沿ったサービスが提供できる様努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナの影響等があり、地域の方との交流ができなかった。移動販売での買い物支援の取り組みを始めた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望に沿って主治医を決めていただいている。ほとんどの利用者が月2回の往診を利用され体調不良時相談などの連携を行っている。	本人・家族の希望の機能によるかかりつけ医としているが、全員が法人の医療機関をかかりつけ医として月2回の往診としている。専門分野への受診は家族対応としているが、特に必要な場合は職員が同行している。職員はバイタルチェックや日頃の関わりから入居者の健康管理に努め、母体医療機関との連携や看護師2名配置により異常の早期発見や適切な医療を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様の異常や急変時は管理者や看護師に報告し、早期受診につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様の入院時には介護サマリーを用いて情報提供を行っている。入退院時には家族と一緒に説明を聞き安心して治療し、早期退院できる様病院関係者と関係作りに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入院時に重度化した場合について説明を行っている。入院経過の中で状態の変化に伴い、家族と連絡を取りながら主治医と連携できる様努めている。	入居に際し、重度化した場合にはホームでは対応できない事を説明し、出来得るところまで支援し困難になった場合は、他の施設や母体医療院への転院などについて説明している。家族もホームで出来る限り長く過ごして欲しいとの希望も有り、看取りの研修により家族の思いに応えたいとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様の急変時の対応の研修や事故発生時の連絡体制は整っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練はマニュアルに沿って行っている。コロナ下の為近隣の方の訓練参加ができなかった。	年2回マニュアルに沿った避難訓練や地震を想定した災害訓練などを実施している。災害初動訓練や消防署立ち合いで夜間を想定した訓練の様子などが広報誌の中で細かく写真で報告されている。防災の日として非常食試食、コンセントの埃などの安全チェック、ホームにある材料を使った避難用箱ベッド作り、土嚢を積む体験等危機管理を高くして臨んでいる。	有事に備え避難棟が新設されている。今後も、運営推進会議を生かした訓練や地域を巻き込みながらの訓練等を計画されることが期待される。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	丁寧な言葉かけを行っている。居室での更衣やポータブルトイレ使用時は必ずドアやカーテンを閉めるようにしている。	入居者への対応は敬いの心で接し、丁寧な言葉使いを全職員で共有している。呼称は苗字にさん付けとしているが、同姓者には下の名前でも対応している。入居者の中には職員の声掛けや一つひとつの支援に「ありがとう」と返事をされており、職員も入居者から学ぶことが多いと振り返っている。入居者の身だしなみやおしゃれの支援については、本人の希望を聞きながら家族の協力も得ながら支援している。	玄関内に置かれた面会簿については、個人情報の点からも個別記入が望ましいと思われる。取組に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望などに対しては答えを待つようにし、自分から訴えることが少ない方には声掛けし、希望などを聞くようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務に流されない様言葉かけを行い、自分から考えることができるように答えを待つようにし、自己決定を働きかけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分でできないところは介助し、整容を手伝っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の提供時に「今日は○○です。おいそうですね。」等言葉かけし、食事に興味をもって頂ける様にしている。食事の形態は1人ひとりに合わせて変えている。	現在、朝食はホームで作り、昼・夕は法人厨房で外部委託し調理されたものを提供している。誕生会は誕生会メニュー(巻きずしやちらしずしなど)を準備しその月で祝っている。また、敬老御膳や七夕メニューなどの季節食、毎月各地のお弁当の日(鹿児島かしわ弁当、福井県駿河寿司弁当など)など工夫されている。入居者も茶わん洗いや月見でのおはぎ、干し柿づくり等に取り組み、おやつの飲み物を計量(粉・砂糖・牛乳)しながら作り、一人ひとりに声を掛けながら配られる等潜在能力を発揮させている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分摂取量など記録に残している。好みの飲み物や飲みやすいものなど提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	その人の能力に沿って、口腔ケアの声掛けや支援、口腔内のチェックを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人1人の排泄パターンを把握し、出来るところは見守りできないところは支援を行っている。リハビリパンツから布パンツにパット対応に換えたトイレに同行しパット確認を行っている。漏れや汚染時はパット交換や陰部洗浄など都度対応している。	排泄支援は個々の残存機能を大切に、定時の声掛けや誘導、自立であっても職員は外で見守り、夜間歩行が心配な方には、ポータブルトイレを使用している。トイレ入り口には使用中を知らせる掛札が準備されており、自ラ札を表にして入り使用後は元に戻される入居者や、さりげない職員の見守りの姿などホームの日常を見る事が出来た。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の前にラジオ体操・軽いストレッチを毎日行っている。水分補給に気を使い水分摂取量を個々に記録して脱水予防にも取り組んでいる。医師にも相談して取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時は予め決めているが、断られる時もあり声掛けの工夫や翌日の方と交代して入れている。浴室内の温度にも気をつけすべり止めマットやシャワーチェアを使用するなどして安全面に配慮している。	基本的に週2回の入浴を支援している。無理強いはせず本人の希望を大切にしている。湯船に浸かる事が出来る方は少なくなっており、かけ湯や足湯を並行しながらシャワーでの支援に努めている。浴室や脱衣所は温度管理に十分配慮し、滑り止めの使用なども確認された。また、入浴剤を使用し色や香りを楽しんでもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室にテレビが無い方で、居間のテレビを見られご本人が眠くなったら休まれる配慮をしている。体調をご本人に聞き休息の声掛けを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1人ひとりの薬の目的や副作用・用法・容量について理解しており服薬時のむせ込みなど水にとろみをつけて対応している。薬の数が多い方は小分けにして服用していただいている。いつもと違う変化があった時には内服との関係を調べて医師への報告に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節ごとの歌を歌ったり、タブレットの将棋・貼り絵・トランプ・雑誌など個々の好きな趣味を知り取り組んでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族様の協力により、外出されたり自宅に連れて帰られたり、一部の入居者様は出来ている。気候が良い時期には散歩(車いす使用)の支援を行っている。(コロナ下で出来ないことが多かった)	外出の制限があり以前のような支援は難しい現状であったが、避難棟が建つ以前はデッキでの日光浴や車いすを使用しながら近隣を散歩している。またバラ園や桜見学は地域資源を活用しながら今年も出かけており、花に囲まれた笑顔の写真とともに広報誌で紹介されている。家族には受診や花見学時の同行、髪染めなど理美容支援への協力が得られている。	避難棟工事により移動販売車の訪問が現在中止されている。入居者の外出の楽しみや近隣者との交流の機会にも繋がると思われ、再開に期待したい。コロナ禍で外出への意欲も薄くなっている場面も見られるようであるが、今後も改まった外出ではなく、玄関先での外気浴等に期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金の所持したり使えるように支援している	R5年8月より移動販売が月に1回来ており、入居者様にお金を渡し15時に食べるお菓子を購入していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時は電話をかけている。手紙のやり取りはない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間では、BGMなどを流し音が大きくならないようにしている。廊下は、入居者様と一緒に作成した季節の飾りを貼り、殺風景にならないようにしている。	この1月2階建ての避難棟が建ったことから、以前のようにホーム外観がわかりずらくなっているが、玄関から入ると変わらぬ穏やかな雰囲気伝わってきた。食事やレクレーションの場、食事を持つ間やテレビ視聴が出来る談話室を使い分けながら入居者にメリハリのある生活を支援している。ホーム内は入居者と職員と一緒に明るく過ごせるよう、壁面制作や飾りつけを工夫している。庭先に咲いた草花が随所に置かれていたり、外出時に拾った松ぼっくりを使った飾り物などもアイデアが活かされた住環境である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビが好きな人や、本を読まれる人など各々が自由に移動できるようにしている。居間ではトランプや花札をされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は自宅で使用していたものや、写真・花など本人様の好みの物を家族が配置している。	自分の部屋となる居室であり、自宅にある物、普段使用している物など自由に持ち込んで欲しいと伝えている。圧迫感のない広さの居室は部屋別に花のスタンドグラスが居室前に飾られ目印にもなっている。奥様手作りのカバーが付いたクッションや家族の写真、椅子など持ち込みの種類や量は様々であり、職員が中心になって掃除や必要な衣類（リハビリがしやすいズボンなど）があれば家族へ伝えている。自ら物品を押し入れに収納しスッキリした部屋も見られた。	入居後も必要な品の持ち込みや逆に安全面から持ち帰りを依頼するなど、その時々に応じて対応されている。自分の部屋を嬉しそうに案内される入居者など居心地の良さが伝わり、変わらぬ支援が期待される。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、浴室などは分かりやすく張り紙をしている。居間・食堂は移動しやすいように環境整備を行っている。		